

中京大学の
FDとは

FDとは、授業内容・方法や広く大学に係る活動を改善し向上させるための組織的な取り組み（Faculty Development）のことを意味します。中京大学では、FDを“大学のすべての者の幸せのため”と位置づけ、それを目指して教職員・学生がベストを尽くすもの（For Doing our best）ととらえています。



教育推進センター長あいさつ

中京大学教育推進センター長 鈴木 崇 児

本年4月から教育推進センター長を務めております鈴木崇児です。昨年度まで副学長・FD(Faculty Development)委員会の長として、粘り強く全学のFD活動を統括されてきた現学長の安村仁志先生から直接バトンを託され、責任の重さに不安を感じつつも、関係者の皆様に支えられて、なんとか春学期を持ちこたえることができました。ここでは、遅ればせながらFDニュースレターの紙面をお借りして、就任のあいさつをさせて頂くとともに、現在固まりつつあるFD活動に関する組織と方針を紹介させて頂き、これを契機として、教職員・学生を含め中京大学に関わる多くの方々に今後の教育推進活動についてより一層のご理解とご協力を賜りたいと考えています。

昨年度まで、本学の教育改善活動の下支えを担ってきたFD委員会が発展的に解消され、本年度より教育推進センター及び同委員会が発足いたしました。教育推進センターはその組織の中核として、本学の教育の向上を推進すべく、FD活動をはじめとして様々な取り組みに関わっていきます。しかし、教育推進センター自体は、センター長と教育企画課の事務職員3名からなる小さな組織に過ぎません。そのため実際の活動では、各学部・研究科・事務局から代表者を送って頂き、全学的な教育改善の課題に対して、それぞれの部局で行われるFD活動との調和を図りつつ、教育推進センター委員会として取り組んでいくことになります。

教育推進センター委員会は、昨年までの「旧FD委員会の教育関連業務」を継続的に実施するとともに、NEXT10の目標として掲げられている「自ら考え、行動するしなやかな知識人を育成する教育の推進」を目標として、委員会の下に3つの専門部会を組織し、センターと連携して活動を開始したところです。

「教育活動改善部会」は、既存のFD活動も含め中京大学で実施している教育活動全般について足下からの改善を目指して改善提案を行います。本年度は、①専任教員へのアンケート調査、②研究科のFD活動に関する情報収集と具体案の検討、③学部FD活動のGood Practiceの共有に取り組めます。部会長は、私、経済学部の鈴木崇児が努めさせていただきます。

「能動的学修検討部会」は、NEXT10にも提示された学生の主体的学びを促す教育施策の提案を行います。本年度は、①専任教員へのアンケート調査、②学生の主体性を伸ばす取り組みの整理、③シンポジウムの開催や冊子の編纂を通じて本学における能動的学修の実態やあり方を明確化し、次年度に具体的な取組みを実施すべく準備を進めていきます。部会長は、総合政策学部の坂田隆文先生にお願いしています。

「教育・学修協働部会」は、学生・教員・職員が協力し、本学の目指す教育・学修を広く、深く浸透させる活動を担います。本年度は、①学生FDスタッフ活動のサポート、②FDニュースレターの発行、③教育推進に資する講演会の開催、④TA・SA制度の現状把握と点検といった広範囲な活動を行う予定です。部会長は、現代社会学部の伊藤葉子先生にお願いしています。

また、上記以外の旧FD委員会が実施してきた多くの教育関連業務については、教育推進センター自身が業務として関係事務部局と協力しながら実施し、大きな変更を要する場合には、改めて教育推進センター委員会に諮ることにいたしました。

センター長に就任してから短い期間ではありますが、本学における教育の現実について、改めて考える機会がありました。その際には、多くの教職員や学生の顔が脳裏に浮かび、いろいろな意見がありそうなことを思い出させてくれています。しかし、その一方で、すべての人にとって満足の得られる改善策を得ることは難しいという考えも同時に頭を過ぎりました。教育や学修の改善活動は未来を見据えて行っていくべきものではありますが、我々の日常における地道な工夫や努力の積み重ねが肝要であることも確かです。しかし、この思いが強くなり過ぎると、つい遠くを見ることを忘れ、伏し目がちにごく限られた範囲ばかりを見ていることになってしまう気がします。

やや楽観的すぎるかもしれませんが、本学のこれからの教育・学修に我々自身がよい期待を持ち、できるだけポジティブなFD活動をしていく方がより成果も上がるはずです。For Doing our best! 我々自身を幸せにするFD活動に、明るく、楽しく、取り組んでいきましょう。安村先生から引き継いだものを大切に進んで行きたいと思っています。

本冊子の主なコンテンツ

特集 大学におけるゼミナール教育とは？ ②

- ・総合政策学部のゼミナール ③
- ・心理学部のゼミナール ④
- ・法学部のゼミナール ⑤

小特集 学生FDスタッフの紹介 ⑥

- ・中京大学学生FDスタッフ
「SearCH（サーチ）」 ⑧

特集 大学におけるゼミナール教育とは？

学長補佐・教学部長 桑 村 哲 生

大学ではゼミナール（略して「ゼミ」）形式の授業が必ずあります。科目名称は「ゼミナール」、「演習」、「プロジェクト研究」など、学部によってさまざまですが、なぜ講義科目だけでなくゼミ形式の授業があるのでしょうか。講義科目との違いはどこにあるのか、ゼミのもつ意味を改めて考えてみましょう。

1. ゼミナールの特徴

ゼミ形式の授業の主な特徴をいくつか挙げてみます。

◎少人数教育

1クラスあたりの履修者数が少なく、10～20人程度です。したがって、学生間の交流も、教員と学生の交流も、講義科目と比べるとはるかに密にできます。また、大教室の講義では机が固定されていて、学生は前を向いて座っていますが、ゼミは小さな教室で、その時々授業の目的に応じて、机の配置をさまざまに変えながら実施します。



◎授業以外のイベント

ふだんの授業以外に、同じ教員が担当する異なる学年のゼミを合同で開催したり、複数のゼミが合同発表会を開いたりして、縦横のつながりを作る試みもされています。また、ゼミ合宿やコンパなど、授業以外のさまざまなイベントを企画することもあります。それによってメンバー間の交流が深まり、一生の友が得られることもあるのです。



◎双方向授業

講義科目の場合は教員から学生に向けて情報を発信する、一方向の授業になりがちです（もちろん、双方向になるように工夫している講義もあります）。一方、ゼミの場合は学生が積極的に発言することが求められます。受け身ではなく、自主的な取り組みが必要です。このような授業形態は「アクティブラーニング」（能動的な学習）とも呼ばれ、ゼミでは次に述べるような作業を伴います。

【課題探究型学修】

あるテーマ（課題）に関する基本テキストを分担して読んできて、内容を紹介する。グループに分かれて討論し、共同作業で問題を解決する。興味をもったテーマについて、図書館やインターネットで資料を調べてきて発表し、質問に答える。それをレポートや卒論にまとめる。他の人が書いたレポートや卒論を批評・校閲する。そのコメントを踏まえて改訂する。ゼミではこのような課題探究型・問題解決型の学修が中心になります。



2. 中京大学のゼミ

本学で開講されているゼミの種類を簡単に紹介しておきましょう。

まず全学共通科目として、1年次を対象にした「基礎ゼミ」という選択科目があります。資料の調べ方・発表の仕方・討論の仕方・レポートの書き方などの基礎的な技術を身に付けつつ、学問への関心を喚起するための、いわゆる大学入門ゼミです。各クラスは全学共通で開講されているので、他学部の学生と交流する機会にもなります。全学共通科目としては他に、1～4年次のいつでも履修できる「教養テーマゼミ」（異なる学年の人たちと一緒に学べます）と、卒業前教育として4年次秋学期限定の「教養探究ゼミ」があります。

学部固有科目として、学部独自の入門ゼミを1年次に配置している学部もあります。2年次以降になると、卒業研究につながるゼミ形式の科目がどの学部にもおかれています。2年次か3年次で自分が所属するゼミ（指導教員）を選択します。希望者が殺到すると第二希望に回されることもあります。この選抜方法については学部ごとにいろいろ工夫されています。2年次、3年次のゼミで学んだことを踏まえて、4年次の終わりに卒業論文を完成することになります。

さらに大学院に進学すると、ゼミは研究発表の場になります。論文紹介や、自分の研究の中間発表をして、質疑応答を通じて研究の質を高めて行きます。学会発表の予行演習をゼミで行うこともよくあります。それが修士論文、博士論文へとつながっていくのです。

では次に、具体的にどのような内容のゼミナールが実施されているのか、3つの学部のゼミについて紹介していただくことにしましょう。

総合政策学部のゼミナール ～プロジェクト研究報告会の現状と課題～

総合政策学部 教授 桑原 英明

総合政策学部では、学部開設以来、3年次の学生たちによる研究成果の報告会である「プロジェクト研究報告会」を実施してきました。これは当初から学部最大の行事として位置づけてきました。すべてのプロジェクト研究（P研）が、この報告会に参加することはもとより、教員の支援のもとではありますが、その企画立案から実施までのマネジメント全般を、学生自身が行うことも大きな特色としています。また、報告会も各P研内で1チームを選抜する1次予選（11月末）から、すべてのP研が参加して上位チームを選抜する2次予選（12月下旬）、そして、学外から審査員を招き、これら上位チームが競い合う本選（翌1月中旬）と、3段階の選抜過程をもつ仕組みも当初からの伝統となっています。

ここで、他学部ではゼミナールや演習と呼んでいる担当教員のもとで複数年のセメスターで履修し、卒業論文や卒業研究をまとめる科目のことを、本学部ではP研と呼んでいます。その理由は、最終学年では個人で卒業論文や卒業研究を仕上げるとしても、2年次および3年次には複数の学生でチームをつくり、特定の政策課題に取り組むスタイルに重きを置いているからに他なりません。共同研究を行うことにより、困難な課題に立ち向かうチームワークを育成できることもあります。創造的なアイデアを引き出せることも大きいのです。とりわけ政策系学部では、難しい課題を「発見」し、解決策を提案するまでの政策形成能力が求められていることから、チームで課題に取り組むことが不可欠と考えています。

ところで、こうした報告会を経験した学生たちに意識や行動面でいかなる変化が生じたのでしょうか。当P研所属の学生たちについてはありますが、私の主観的な観察によれば、以下の3点を指摘できます。第1に、概ね8ヶ月にもわたる政策研究のなかで、彼らなりの課題を「発見」することの大切さに気付くこと、第2に、多くの困難を乗り越えたチームほど、最終的には皆が笑顔で対応できるようになって行くこと、第3に、そうは言ってもメンバーの皆が自ずとリーダーとして目置く者が出てこない、最後まで共同研究を続けることは容易ではないことであります。そして、ここで付け加えておくべきことは、担当教員はあくまでも、自身の研究ではないことを絶えず自覚しておくことでしょう。

さて、このようにして今年度に9回目を迎えるP研報告会ですが、まったく課題がないわけではありません。私見ではありますが、次のことを指摘しておきます。ひとつ目は報告会自体が「お祭り化」してきたことです。報告内容というよりはプレゼン重視になってきたように思えてなりません。ふたつ目は、評価することの難しさです。課題発見のユニークさか、分析の切れ味か、解決策の斬新さか、あるいはその実現可能性なのか、いずれにどの程度の重きを置くべきなのかは教員間でも意見が分かれます。今後さらに、皆で意見を交わしながら改善を加えて行きたいと考えています。



▲プロジェクト研究報告会の様子

学生の感想

自己成長が図れたプロジェクト研究

総合政策学部 総合政策学科 4年
浅沼夏奈

私が総合政策学部のプロジェクト研究で良かったと感じることは、『自らが考えて動く』機会が多くあることです。私が所属しているプロジェクト研究では、全員が主体的に動いていくことが活動をする上で重要になっています。企業の方へのアプローチ、プレゼンテーションを行うための企画書づくり等、必要だと思ったことはとにかくやってみる、ということ意識して行ってきました。初めは、やり方もわからず、失敗することも多くありましたが、経験を積むことで、その失敗も少なくなり、自分自身が成長できたと感じています。



この学部のプロジェクト研究に入るまでは、社会人と学生の考え方の違いを深く感じることもなければ、目標達成に向かってひたすら考えて動くという経験も少なかったと思います。社会人になる前に、このような経験を積めたことは、本当に貴重だと思いますし、これからの糧になると思います。

学生の感想

プロジェクト研究の活動で私が出た力

総合政策学部 総合政策学科 4年
高崎玲奈

私の所属しているプロジェクト研究では、主に国際法について学習をしています。これまでのプロジェクト研究における活動の中で最も印象に残っている出来事は、総合政策学部で年に一度開催される報告会に出場したことです。私たちは昨年度、「日本におけるLGBT問題」をテーマに報告会に出場しました。テーマに関する研究を進めていく中で、問題に対する政策提案を一から考え出すために様々な苦労がありました。多くの文献を読んで資料を探し、自分たちで当事者の方へのインタビューを行い、何度も話し合い、試行錯誤を繰り返した結果、自分たちの納得がいく政策提案を考え出すことができ、報告会本選において入賞を頂くことができました。



私はこのプロジェクト研究での活動を通して、自ら行動を起こす力や物事を様々な視点から見る力がついたと感じています。そしてなにより、数百人の前に立ち発表を行った経験は、今でも自分の自信につながっています。

心理学部のゼミナール ～ゼミで過ごす2年間の学び～

心理学部 講師 松本 友一郎

心理学部のゼミですが、科目としては3年生以上の配当である心理学課題演習1・2と4年生配当の卒業研究があります。卒業研究はなんと通年10単位です！内容はそれに見合うものであり、ゼミの先生の指導を受けながら学生自身がすべての研究計画を立て、調査や実験等を実施して分析・執筆します。1つのゼミが平均で15名程度という大所帯ですので、学生だけでなく教員も各学生の指導、相談、添削等でなかなか大変です。お互い、毎年よく乗り切っているなあと思います。ただ、卒業や就職をゴールとせずにその先の活躍まで見据えるなら必要な科目であるとも思います。学生は本当に間違えるほどに成長しますので、教員としてはそれを励みにがんばっております。

学習の進め方はゼミごとに少しずつ違ってきます。心理学部は臨床心理学領域、発達心理学領域、実験心理学領域、応用心理学領域という4つの領域で構成されているのですが、以降は2つのゼミをご紹介します。1つ目のゼミとして応用心理学領域所属の私のゼミをご紹介します。大まかなスケジュールとしては、3年生の春学期前半に専門書の輪読をします。後半は学生が自分の好きなテーマで文献をいくつか調べてまとめ、プチ講義をしてもらいます。秋学期は簡単な共同研究をしつつ、最新の論文を読んで発表してもらいます。3年生秋学期の最後には卒業研究のテーマを決めて発表してもらいます。私のゼミの場合、標準的なスケジュールであれば4年生春学期にデータを採って秋学期に分析・執筆という流れになります。応用心理学領域はほとんどが就職希望ですので、就職活動や公務員試験を考慮しつつ学生と密に相談しながら進めていきます。春学期の最後にはゼミ内で卒業研究中間発表会を行います（写真）。これは3年生も参加することとし、発表者にいろいろ質問を投げかけてもらいます。また、卒業論文の提出後に応用心理学領域全体で卒業研究発表会（口頭試問）を開催します。基本的に指導教員以外の先生から質問をします。時に厳しい質問が出ることもありますので、学生は入念に準備をします。ただ、ゼミに配属されてからの2年間にプレゼンの機会を多く設けておりますので、卒業研究発表会が終わるとなかなかしっかりした発表をするようになったなあ感慨に耽ったりします。

最後に、よその領域のよそのゼミはどうなのか気になって、心理学部で最も多くの教員と学生が所属する臨床心理学領域の明瀬先生にお話を伺いました。全体的に私のゼミと年間のスケジュールは似ていますが、やはり臨床心理士という資格を目指して大学院進学を考えている学生が多いだけにさらに本格的で充実した内容でした。たとえば、明瀬ゼミの場合、3年生の最後には卒業研究の研究計画書を提出してもらうそうです。また、卒業論文提出後に臨床心理学領域全体で行う卒業研究発表会は、学生約70名が発表するため2つの教室に分かれて学生自身が司会進行等も担当するそうです。また、各学生には副査の先生がついており、かなり深い内容まで質問をされることもあるとのこと。しかし、学生にとって自分の成果を誰かにしっかり見てもらえるというのは張り合いにもなって良いように思います。



▲卒業研究中間発表会の様子

学生の感想

主体性が育まれた活動

心理学研究科 臨床・発達心理学専攻 1年
松田 凌

私は学部生の頃、臨床心理学領域のゼミに所属していて、そこでの2年間ではゼミ活動の終着点である卒業論文執筆に向けて様々な学習をしてきました。3年生の初めは指導教員の専門分野である芸術療法を体験すること、臨床心理学研究に触れることが学習の中心で、全体でのシェアリングが多くなされました。これらを通して、臨床心理学領域で行われている活動や研究に親しむことができました。3年生の後半からは卒業論文執筆に向けての内容が中心になってきます。興味のある研究内容を見つけるところから始まり、先行研究をまとめ、自分の研究テーマを決めるところまで、度々発表を行い、ゼミ生や先生から意見を

いただきます。研究を進めていく中で行き詰っているときは、このような意見が大いに参考になります。研究テーマや目的が決まったら、各自でデータを収集・分析し、論文を執筆します。

この2年間では、主体的に課題に取り組む力が育まれたと私は感じています。自分で選んだ研究に責任を持って取り組み、先生に意見を求め、仲間と協力しながらオリジナルの研究を作り上げる。この一連のプロセスの中で多くを学ぶことができ、現在の研究にも活かしていると思います。



法学部のゼミナール ～政治学ゼミの取り組みを例にして～

法学部 准教授 京 俊 介

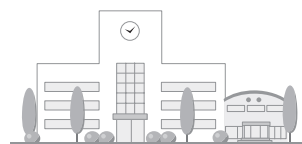
法学部では、ゼミがもたらす教育効果を重視し、学部固有科目としての演習科目を1年次から通年で開講しています。これにより、少人数クラスにおいて法学・政治学の基礎となる知識や考え方を学びつつ、大学生生活の早い段階で議論やプレゼンテーションの能力を身につける機会を得られます。

3年次以降は全専任教員がゼミを開講しており、学生は法学・政治学における個別の専門領域を本格的に学ぶこととなります。法学部では2013年度より学生が運営主体となってゼミの活動成果をコンテスト形式で発表する「法学部ゼミ対抗プレゼン大会」を開催しており、そこに3～4年生のゼミの多くが参加しています。日頃のゼミ活動の集大成を発表する機会を通じて、専攻の異なるゼミ間で切磋琢磨することができ、それがリサーチやプレゼンテーションの能力の向上につながっています。

なお、法学部におけるゼミは必修科目でないため、ゼミを履修しなくても、他に多数開講されている選択必修科目の単位を修得することができれば、卒業要件単位を充足することは可能です。それにもかかわらず大多数の法学部生がゼミを履修しているという事実は、学生の目線から見ても、ゼミでの学修に意義があるということを示唆しているといえるでしょう。

上述のようにゼミでの教育効果を重視する法学部において、私の担当する政治学ゼミにおいても、いくつかの特徴的な取り組みを行うことで教育効果の向上を図っています。3年生のゼミは、他の複数の大学の政治・行政学系のゼミとの合同ゼミに参加しています。この合同ゼミの内容は、複数の大学のゼミの学生から構成される班が当日議論をして1つのプレゼンテーションを作り上げるというものです。この企画を通じて、初対面の学生と議論し、協力しながら、決められた時間内で課題を仕上げるという経験を行うことができ、参加する学生からは毎年好評を得ています。この企画は2013年に2大学の3ゼミからスタートしましたが、2015年には愛知大、名古屋大、名城大と中京大という4大学5ゼミの計70名の学生が参加する一大イベントとなっています（関心をもたれた方は、中京大学ホームページの「学習・研究活動」をご覧ください）。

4年生ゼミの活動は、上述した「法学部ゼミ対抗プレゼン大会」での発表を行うためのものが主となります。ゼミ活動の基本は、関心が近い学生同士で構成される3～4名のグループの自主的なリサーチ活動です。適宜開かれる中間発表会において私や他のグループのメンバーからのコメントやアドバイスはあるものの、何をどのように明らかにしていくのかは、各グループの自主性に委ねられています。文献調査を徹底するために、夏休み休暇中には国立国会図書館での調査を主目的とする合宿も行っています。ゼミ内における最優秀グループがプレゼン大会に出場することになっており、よりよいリサーチとプレゼンテーションを行うべくゼミ内での競争が行われています。



▲合同ゼミでは他大学の学生と協力して発表内容を検討



▲法学部ゼミ対抗プレゼン大会で発表する京ゼミ代表の学生

学生の感想

人との交流と意見をぶつけ合える場

法学部 法律学科 4年
堀 田 貴 久

法学部のカリキュラムにおいてゼミの履修は必須ではありません。しかしながら、多くの学生が履修します。なぜでしょうか。単位が楽に取れるからでしょうか。私の場合は、意思の疎通が下手という苦手意識があったため1年次からゼミを履修していました。

私の所属する京ゼミは発言を最も重視します。第1回目に配られるプリントには「疑問に思ったことは何でも発言すること」とあります。最初は負担に感じるかもしれませんが、慣れればゼミのみならず就職活動の場面でも躊躇せず質問や発言が出来るようになります。これは、私にとって大きな収穫であり、今も私にとって大切な糧となっています。

と言えます。また、他のゼミ生の意見や合同ゼミで他大学の学生との交流で得られる刺激はゼミ特有ではないかと思います。

本の勉強だけでは学べないものを学び、自分の意見を伝える練習をする。これがゼミに参加する意義ではないでしょうか。



小特集 学生FDスタッフの紹介



名古屋キャンパス



心理学部 心理学科 3年
伊藤 愛理

- Q1** ALBOのお知らせに興味を持ち、説明会に参加しました。
- Q2** たくさんの出会いと交流です。学生同士はもちろん、普段関われない教職員の方々、さらに他大学の学生とも大学について一緒に考える機会を持てるのが、学生FD活動の魅力です。
- Q3** 楽しく学生FDを知ってもらえるような企画を考えています。



法学部 法律学科 3年
坂下 詩織

- Q1** 何かやりたいと思っていたときにちょうど募集広告を見つけ、FD活動を知りました。
- Q2** 企画など考えたことや疑問など思ったことを提案・発言して外部に伝える力が身に付きました。一方で詰めの甘さが目立つことが多いため先を見通せる力を得たいと思っています。
- Q3** フラッとでも足を運んでみてください。楽しめると思います。



心理学部 心理学科 3年
齋藤 梨菜

- Q1** 説明会で出会った先輩が楽しそうな方で、ぜひ一緒に学校を楽しみたいと思いました。
- Q2** 授業や学校をどうしたらもっと楽しくできるようになるかを話し合える友人を、他学部、先輩後輩でも作ることができました。また、活動を教職員さんとも一緒にするため、職員さんや先生とも話やすくなりました。
- Q3** 初めての大学祭出店となるので、いつもの固いFDのイメージを少しでもやわらかく、楽しくできたらなと思います。



経済学部 経済学科 3年
竹内 健斗

- Q1** 学内の募集広告をみて少しでも大学の教育改善に貢献したいと思い応募しました。
- Q2** FD活動を通じて様々な人たちと関わることができ、自分自身が成長しました。また中京大学の学生FDはまだ出来たばかりなので他大学の活動のよいところを取り入れ学生がよりよい大学生活を送れるように努力したいと思います。
- Q3** 大学祭に出展するのは今年がはじめてなので少しでもFDについて知ってもらふこと、FD活動に関心をもってもらいご理解いただけるよう大学祭企画をつくっていききたいと思います。



国際英語学部 英米文化学科 3年
佐合 祐紀

- Q1** ALBOの募集やFDニュースレターを見て、FD活動を知りました。
- Q2** 普段、大学に通うだけでは気付くことができない、教職員の方から見た大学や他学部の学生から見た大学を知ることができました。
- Q3** FD活動を多くの人に知ってもらえるように頑張りたいと思います。



法学部 法律学科 3年
村上 優哉

- Q1** 政治学入門の講義の前にあった説明会で。
- Q2** 今までになかったような刺激を感じたい。
- Q3** 自分なりにやれることをきっちりとこなす。



文学部 歴史文化学科 2年
木村 大輔

- Q1** センタービルのエレベーター前にあったポスターを見てFD活動の存在を知った。
- Q2** 昨年のFDサミットで全国に自分たちと同じような活動をしている学生が多いことを知り、この活動で大学をよりよくするために自分の意見をもっと言いたいと思う。
- Q3** この企画で多くの人にFD活動について知ってもらいたいです。



心理学部 心理学科 2年
前田 超志

- Q1** 大学のシステムに不満があったため、そういった不満を解消するための活動をするというところに惹かれ入りました。
- Q2** FDサミットといった他大学との交流によって、ファシリテーターなど議論に役立つスキルなどを専門の方から直接学ぶことができます。また、初対面の人と交流することが多いので、社交性も身に付きます。
- Q3** 初めての大学祭ということもあり、すべてが上手くいくことはないと思いますが、初めてだからこそできる経験もあると思いますので、頑張りたいです。



法学部 法律学科 2年
北田 哲也

- Q1** 大学の講義を受ける前に、FDに所属している人がFD活動についての説明を行い、それを聞いて「面白そうだな」と思ったからです。
- Q2** 自分で企画を作成し、それを発表することが今までに経験したことがなかったのでいい経験を得られたと思っています。
- Q3** 大学祭の企画については絶対に成功させたいという思いでいっぱいです。



経営学部 経営学科 1年
植木 紀早

- Q1** どのサークル活動に入ろうか迷っていたときに、勉強やバイトと両立出来る部活だと思い入りました。
- Q2** 個人で作業する事が多い為、ミーティングの時は話をしっかりメモするようにになりました。また、自分の意見を言うことがとても大事だと改めて感じました。
- Q3** 中京大学の学生だけではなく、小さいお子様から保護者の方まで楽しんでもらえるように、頑張ります！

豊田キャンパス

- Q1 FD活動との出会い
Q2 FD活動を通して得たor得たいモノ
Q3 自由に一言



スポーツ科学部 スポーツ教育学科 4年
細 野 修 汰

- Q1 体育の授業で三上先生が宣伝をしてくれて、話を聞きに行った。
Q2 大学をよくするためにみんなで意見を出し合い、学生主体で様々なことに取り組み何が必要か気づくことができることを得たい。
Q3 自分の大学をよくするためにいろいろ考えることは、自分自身の大学の見方を大きく変化させることができ、また後輩が過ごしやすい大学を自分たちでつくることのできるとてもいい機会だと思う。



スポーツ科学部 競技スポーツ科学科 4年
大 岩 俊 介

- Q1 何か大学生活でやりたいと思っているときに、三上先生がFDについて話していたので始めた。
Q2 イベントや企画をやるにしても、立案、計画、役割分担、リハーサルなど、いろいろなことを自分たちで運営することの難しさや大変さを身に染みて感じ、ひとつのことを運営することが大変だということを学んだ。
Q3 学生FDが活動するようになってまだ数年だが、サミットにも参加させてもらっているので、今後のFDをいいものにしていけるように残りの少ない大学生活のなかでいろいろ考えていきたいと思う。



スポーツ科学部 スポーツ健康科学科 3年
小 林 健 司

- Q1 先輩の紹介で知りました。
Q2 様々な企画を計画していく中で自分では思いつかない考え方を話し合いの中でたくさん身につけて行きたいと思います。
Q3 たくさんの話し合いの場を設けて知識を広げていきたいです。



スポーツ科学部 スポーツ健康科学科 3年
岩 田 圭 弘

- Q1 4年生の先輩から誘われて、やってみない？と言われたため。
Q2 企画運営と自ら発案することがどれだけ多くの人に興味を持ってもらえるかということを知り、自分の考える力や修正能力を身につけたい。
Q3 FDは気兼ねなく参加できて、多くの人の意見を求めています。なので、大学に協力参加するだけでなく、自分たちのためにまず一つやってみませんか？



スポーツ科学部 競技スポーツ科学科 2年
堀 島 有 紗

- Q1 三上先生からの紹介。
Q2 今年やりたいことを企画し、企画書を作成し、秋学期には実行することができます。この企画のおかげで計画から実行するまでの間にたくさんの手助けがかかっていることが分かりました。このことをこれからの新しい企画、また、社会人になったときに役立つといいなと思っています。
Q3 学生FDの方々はとても楽しい人が多く、先生方もとても協力的です。やりたいと思ったことを学生主体になるよう手伝ってくれます。中京大学全体がもっとこうしたらいいのになという考えを素直に発言、受け入れられるようにしたいです。そして全体で高め合える大学作りを目指したいです。



スポーツ科学部 競技スポーツ科学科 2年
野 田 千 晶

- Q1 1年の時に、学生FDとして活動していた友人に誘われミーティングに参加したことが初めてのFD活動との出会いです。
Q2 私はFD活動を通して、自主性や協調性など今後社会にでた際に必要になる力を得たいです。
Q3 豊田はFDの認知度が低いのもっとアピールしていきたいです。私たちの直近の企画で、学生によるゼミ説明会があるので企画を成功させFDのことを知ってもらいたいです。



スポーツ科学部 スポーツ教育学科 2年
信 里 健 人

- Q1 先輩からボランティアに興味がないかと誘いを受け、教員を目指す上でのためになると思い参加した。
Q2 効率良く物事を進めるための考え方や情報伝達方法を習得。責任を負うことの重大さや大変さを感じ、仕事をやり遂げる達成感を得たい。
Q3 豊田学生FDスタッフは4年生を中心に活動してきた。この活動を継続させるために3年生以下がそれぞれ自覚を持ち活動に取り組むたい。



スポーツ科学部 スポーツ教育学科 2年
浅 井 千 明

- Q1 2年生になり落ち着いたところ、友人に誘われたのがきっかけです。
Q2 教員志望なのでより良い授業や学校運営について考え、将来教員になった時に活かせる経験を得たいと思っています。
Q3 まだ私はFD活動へ足を踏み出したばかりですが、良い形で未来に繋がっていく組織になるよう、微力ながらメンバーの一人として歩いていけたらと思います。



スポーツ科学部 競技スポーツ科学科 2年
松 波 香 穂

- Q1 私の友達が学生FDに所属していて、活動内容などを聞き私も参加したいと思いました。
Q2 何かを達成するために人に任せるのではなく、自分で考えて行動できるようにすることです。
Q3 これからも皆と協力してFD活動頑張ります！



学生FDスタッフ SearCH

メンバー大募集中!!!

☆Student ear CHUKYO☆

学生の声に耳を傾ける
中京大学を目指しています!

学生FDスタッフ「SearCH」は、私たち学生が主体となってFD活動に参加する組織です。より良い授業づくり・大学づくりのためにはどうすればよいかを学生の立場から考え、教員・職員と協力しながら、活動の企画・運営を自発的に行っています。

学生FDシンポジウム

教員と学生の交流の場を企画し互いの距離を縮めるきっかけに!
授業への見方・考え方が変わり、意欲的に授業に取り組めるようになります。

What is ゼミ?

実際に先輩からゼミについて教えてもらえる場を企画し、疑問を解消!
ゼミ選択に役立てることで、充実したゼミ活動へとつなげます。

学生FDサミット

全国からFD活動を行う学生が集まり、大学の教育改善について取り組むイベントです。

大学祭企画

楽しいイベント用意します。
イベントを通じて「学び」について考えよう!

これからも、大学のすべての者の《幸せ》のため、～ For Doing our best! ～ のスローガンの下で、教員・職員・学生が一体となって活動していきます。



～新メンバー大募集中～

より良い大学づくりをめざし、今後も様々な活動を行っていきます。
名古屋キャンパスと豊田キャンパスで活動していますので、興味がある方は、是非お問い合わせください。

連絡先 Twitter: @chukyoSearCH

Facebook: 中京大学学生FDスタッフ SearCH

もしくは 名古屋: 教務課(溝口) 052-835-7162

豊田: 教務課(各務) 0565-46-1226